



# 東北復興日記

まだまだ

▶▶▶ 222



未来会議 事務局長

菅波香織さん

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の後、福島県の沿岸部では、立場や考え方の違いにより、分断・軋轢あつれいといわれる状況が生じました。元々住んでいた地域によってレッテルが貼られ、対立的な話がされたこともありました。

一方で、いわき市に住む私は、自宅や家族を失った方々や故郷を

## 立場超え思いを共有

追われた方々の、家族やふるさとへの思いの深さや悲しみに、心を動かされることが多くありました。

二〇一三年一月から私たちは「未来会議」という対話の場づくりを始めました。写真。老若男女、出身も問わず、誰もが参加できる場です。

それぞれの価値観を尊重し、多様さを認め合いたいと考え、喫茶



店のような気楽な雰囲気ではアイディアを出し合う「ワールドカフェ」の手法を主に活用。相手の話を否定しないことがルールで、参加者が本当の思いを言葉にできるよう、進行役を務める「ファシリテーター」の方をお願いしています。毎回、百人前後の参加があり、経験や思いを共有したり、気づきを得たり、ということが続けています。

今年のテーマは「浜通り合衆国」。昨年は「それぞれのふるさと」をテーマに開いた本会議で「遠くにあってもふるさと」「ふるさととは人・誇り」「ふるさととは

増えてもいい」など、住む土地に縛られない概念が出てきました。

その考えや感覚を、より多くの方と深めていったときに何が見えるでしょうか。大きな市町村を解体し、小さな生活圏としてのつながりを「州」と捉えてみたらどうでしょう。文化的なつながりを重視したら。バーチャル建国会議という壮大な実験の第一回は二月に行われ、「憲法をつくらう!」「産業はどうする?」「祭りをしてい!」など、数十のテーマが参加者から提案されました。第二回の会議は七月十七日の祝日に南相馬市で開かれます。自分たちの手による建国へ向けて、より多様な方が参加して下さることを願っています。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。